



# 泉南走ろう会

連絡先 泉南スポーツ社  
0704(3)468

「言って、彼が歩そいよ。そこで皆が思うであらう」  
 「あははもう年だからよつ走らなないのだ」  
 「思うのは素人の悲しき阿呆が男はそんなものではないのだ。彼は前日に十五キロほど走っている。や  
 二十キロも分らなないその翌日は軽く体調を整  
 えていたのだ。それが証拠に新築の田上り階段  
 にて「T」様と会う。(この服装もまた面白い。  
 マンチにトリーニングウェアだ。この暑さのに)。朝八時  
 五分合点である。「T」様「今まで何をしてきたの」  
 と奇異な質問をする。それこそその昔阿呆が  
 男は汗ひつたりだ。謝が見ても思うであらう。  
 何か水仕事か水道かとその汗をかいてる。  
 彼は朝の五時からスタートしているのだ。向も  
 無く二時間走る幸になる。彼は強弱強弱  
 その日。その日のコンディショニングを整えて走るとい  
 である。(蔭の少し日射の時は歩いているのと同じ  
 か。又「I」さん「A」さんと会う。彼はその時  
 下駄をはいている。時には裸足で村の人々を驚か  
 せている。まさしく阿呆が男である。それにし  
 て地理的に地域的に会う者の会費「I」さん  
 と未だ一度も会った事がない。彼はランニングの  
 理論にフンとは滅法強い。インターバルはどの

増田明美選手は、どうのと、理論はほと  
 ほととマッパンを脱ぐ。彼はまた読書家であり  
 月刊ランナーズを誌する各地の大会の模様  
 をよく知っている。それなのに一度も彼のトリー  
 ニングと御会いしがない。彼は、口で走る  
 のでしよう。今更ランニング教室開催か  
 又は夏期合宿の修了、彼を講師に  
 迎えた。阿呆が男は、この様な事を考  
 え、朝のひと時を過す。なる程、それなら  
 は、朝の十時。そうとすべからぬ。  
 皆さし走りましよう。

「アベバガ言。T。敵はエ七人ではななだ  
 二十八人である。自分も入れて」  
 「ある阿呆が男が言った。走った後の  
 一服とてもおいしい。I氏金くだ。金くだ

## 定例ランニング

七月十八日(日) 午前九時 新築公民  
 館集合にて行ないます。

「暫くお休みの皆様 今回は  
 是非御出席下さいませ」